

=====

本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の皆様にお送りしております。

=====



◆ NEE Mail Magazine 100号 ◆

-----2017-5-1◆◇

皐月五月。さわやかな緑の季節です。

メルマガも100号になりました。継続は力なりです。経済教育ネットワークは当初から活動の記録をしっかりとっています。将来誰かが2000年代の経済教育を振り返った時、この記録が役立つこともあるかもしれません。

話は変わって、5月1日はメーデー。学校では、メーデーに参加する先生が多くいて、この日は球技大会や生徒総会などを行っていたというのどかな時代もありました。いまや学校は長時間労働が問題となる場所。ゴールデンウィークも部活指導や公式戦など休日とはならない先生も多くいるかと思えます。

そんな季節、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【1】最新活動報告

4月の活動、ネットワークメンバーの活動を報告します。

【2】イベントカレンダー

夏の教室の情報、部会の案内、関連団体の活動などを紹介します。

【3】授業のヒント

【1】最新活動報告

4月に行われた活動、ネットワークメンバーの活動などを報告します。

■東京部会(No.90)を開催しました。

日時:2017年4月7日(木) 19時15分~21時30分

場所:日本大学経済学部本館2階会議室

内容の概略:参加者13名

(1)夏の経済教室の日程と内容確認を行いました。

当初予定していた名古屋会場が、NIE大会とぶつかったために8月21日と22日に変更されたことが報告されました。また、各会場での講師と内容、タイトルの確認が行われました。

(2)読売新聞の企画の紹介とその活用法、改善などの討議を行いました。

読売新聞が企画、推進している「ワークシート通信」の現状とそれにたいする意見の交換が行われ、実際に使っている現場の先生からの注文や改善点などが

話しあわれました。

(3)実践報告と提案が二つありました。

一つは、杉田孝之先生(千葉県立津田沼高校)の「決め方を考える授業」の報告です。

授業は、多数決イコール民主主義なのかという問題提起からはじまり、自分たちの現在と未来を選択するに際して、選挙であらわされた民意は本当に有権者の意見なのかという問いかけから、多数決で決まる選挙の方法を吟味させるという流れで進められます。

報告では、生徒の反応の紹介があり、授業で提起された問題を深く考えた生徒の事例など、授業を通して生徒が問題の核心をつかんでいる様子が伺えるものでした。検討では、杉田先生が使われた「情報の非対称性」という概念に関して、経済の用語を政治現象に使うことの是非や、非対称の意味が本来の使い方とのずれがありさらに検討してゆく必要があるとの指摘がされました。

杉田先生の授業は、主権者教育に関する新しい視点からのユニークな実践であり、大きな可能性を秘めている実践なので今後さらに検討することになりました。

もう一つは、升野伸子先生の「日本一短い経済史」の授業提案です。

この授業提案は、夏の経済教室で発表予定のもので、経済を学ぶ最初もしくは歴史学習の最後で行う一時間の授業です。古代から現代まで5つの時代のなかで、例えば貨幣の歴史を振り返り、それを漢字一字で書かせて、なぜその言葉を使うのか意味を発表させて検討するというものです。貨幣以外には税などいろいろな事例を漢字一字で表現させて時代の特徴をつかませるという授業です。

これもユニークな授業提案であり、夏の教室までにさらに検討してゆくことになりました。

(4)篠原代表から、大阪三国丘高の大塚雅之先生の公共財ゲームとディベート実践の資料の紹介がありました。

その際、篠原代表からは、囚人のディレンマを使った授業では複数ではわかりにくくなってしまいう実践が多いので、二人ゲームで単純にして学ぶ内容がクリアーに分かるような教材開発の必要性が指摘されました。

(5)今回は、内容的にレベルの高い実践報告とその検討がされ、ブラッシュアップして発信してゆく新たな課題が提起された部会となりました。

内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo090report.pdf>

■名古屋部会(No.11)を開催しました。

日時:2017年4月22日(土) 15時00分~17時00分

場所: 椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟

内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya011report.pdf>

■宮尾先生の実践の続報です。

ネットワークメンバーでアメリカ滞在中の宮尾尊弘先生(筑波大学名誉教授)のディベートを活用したイシュー中心型の授業の報告は4月号に紹介しましたが、その続報が届きました。

その内容は以下にアップされていますので、ご参照ください。

「ディベートの実践例～アメリカでの九州大学の研修～」

<http://miyao-blog.blog.so-net.ne.jp/2017-04-03>

【 2 】イベントカレンダー

* イベント予定です。

■夏の経済教室の準備がすすんでいます。

東京証券取引所と共催で毎夏に行われている「夏休み先生のための経済教室」の準備が進んでいます。

(1) 名古屋会場のスケジュール変更は4月号でお知らせしました。確定の日程と場所は以下の通りです。

8月7日、8日 大阪中学向け、高校向け 会場:国民会館

8月14日、15日 東京高校向け 会場:東証ホール

8月17日、18日 東京中学向け 会場:東証ホール

8月21日、22日 名古屋中学、高校向け 会場:ウインクあいち

(2) 今月は10周年記念講演の概要を紹介します。

○吉川 洋先生(東京大学名誉教授、立正大学教授):東京高校向け

「2030年の日本経済と若者たち」のタイトルで、近著『人口と日本経済』をベースにしてこれからの日本経済の在り方について語っていただく予定です。

ちなみに、3月に発表された次期の学習指導要領は2030年に活躍できる若者たちを育てることを目標に作られています。

○村田晃司先生(同志社大学法学部教授):東京高校向け

「トランプ外交政策と経済」のタイトルの講演です。ご専門のアメリカ外交からトランプ政権の外交政策を分析するとともに、政治学からみた経済教育への注文、メッセージもお願いしています。

○鹿野嘉昭先生(同志社大学経済学部教授):名古屋高校、大阪高校向け
「経済学からみるアメリカの政策」のタイトルでの講演です。鹿野先生は
昨年東京でマイナス金利を中心に金融政策についての講演をされました。
ことしは名古屋と大阪でトランプ政権の経済政策を分析していただく予定です。

○大竹文雄先生(大阪大学社会経済研究所教授):東京中学向け
「中学生に教えたいたい経済的な見方・考え方」タイトルで、中学校の先生向け
に行動経済学の知見やその活用方法について語っていただく予定です。大竹先生
が
中学校向けの教室に登場するのははじめてです。

(3)プログラムの詳細は確定次第、ネットワークのHP、東京証券取引所のHP
に掲載予定です。

* 定例会のお知らせです。(既報分も含め開催順)

■大阪部会(No.53)を開催します。

日時:2017年5月13日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト

参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka53flyer.pdf>

■東京部会(No.91)を開催します。

日時:2017年5月19日(金) 19時00分~21時00分

場所:日本大学経済学部本館2階会議室

参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo091flyer.pdf>

■札幌部会(No.17)を開催します

日時:2017年5月20日(土) 14時30分~17時00分

場所:キャリアバンクセミナールーム

参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo017flyer.pdf>

* 関連団体の報告です。

・生命保険協会作成の中高向けの社会保障に関する授業教材と指導マニュアルが
ネットワークのHPにリンクが張られています。ご参照ください。(既報)

【 3 】授業のヒント

■教材選択の 5 条件

今回はネットワークメンバーの杉田孝之先生(千葉県立津田沼高校)が日頃強調している「教材選択の 5 条件」を紹介します。

教材選択の 5 条件とは、教材には次の 5 つの条件がそろっていることが必要であるというものです。

- ① 本質性 問題の本質に迫っている教材であること。
- ② 具体性 五感にふれるもの、イメージ化できるものであること。
- ③ 関心適合性 生徒の関心、「ひっかかりの心」に即したものであること。
- ④ 関連性 社会認識の柱である関係認識にかかわりがあること。
- ⑤ 発展性 授業のなかで発展性があるものであること。

杉田先生の説のルーツは、先生の恩師に当たる谷川彰英先生(筑波大学名誉教授)が唱えてきた説です。

谷川先生は、この条件にあう教材として、インスタントラーメンをあげて小学校で教材化しています。たしかに、インスタントラーメンは 5 条件にあっている教材ですね。ほかにも、バナナ、エビなどの実物教材や地名の事例を挙げています。この伝で言えば、私(新井)が十八番にしているチョコレートの食べ比べなどもこの条件に会いそうです。

なぜ今このような 5 条件を取り上げたのかと言えば、杉田先生や金子幹夫先生(神奈川県立平塚農業高校初声分校)と「主権者教育に経済教育からの風を」というプロジェクトに取り組んでいる中で、柳田國男の社会科教科書に出会ったことがあります。

というのは、5 条件をあげた谷川先生は柳田國男の教育論で博士論文を書いていて、この条件は柳田社会科の影響を受けていると思われたからです。

私たちは柳田を民俗学者としてか見ないことが多いのですが、実は、柳田は教育にきわめて熱心でした。柳田は、賢い公民の育成による選挙よる国造りが大事であるとして、公民教育や戦後の社会科教育に情熱をかけていました。その成果が、昭和 20 年代に登場した社会科教科書です。この教科書は中学校用が検定不合格になり、完成しなかったのですが、小学校用は 10 年ほど使われていました。

柳田社会科の特色は、当然のことですが、民俗学的な知見がいたるところで見られることです。例えば「あかり」を取り上げて、その変化を追究させながら時代を読ませるなどの教材がとりあげられています。

それだけでなく、選挙でいえば、「親分子分」や「長いものにはまかれろ」など

の日本社会の特質が語られ、それを踏まえて民主主義の在り方や投票、多数決などの実際が取り上げられています。現在の主権者教育のルーツここにありです。

復刻本がでていますので、いまでも手に取って読むことができますが、時代は変わってもなかなか読ませる教科書です。

そんな柳田社会科が取り上げている教材の多くが前記の「教材選択の5条件」にぴったりなものが多いのです。その点では、柳田→谷川→杉田とつながっているとみることができるかもしれません。

系譜さがしはさておき、先生たちも教材探し、ネタ探しを日頃心がけていると思います。そんななかで、本当に使える教材は何か、この5条件にあてはめて教材の選定やそこからの授業づくりに取り組むと、生徒たちの認識の深化や広がり大きな成果が得られるはずです。

経済に限らず、いろいろな学習の場面で、ネットワークのみんなが教材探しをしてみてください。（新井）

【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

フランスの大統領選挙、イギリス下院の選挙と立て続けに世界で重要な選挙が行われています。公民の教員としては教科書にある世界の政治体制の話がそのまま現実に登場して、まさに実物教育ができますが、結果によっては大きな世界変動が始まる時代になってきました。政治だけでなく、経済も大きな変動が起こりそうです。そんな時代だからこそ、しっかりした見方や考え方を教える、クールヘッドが教員にも必要なことだと感じています。（新井）

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページより
お手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

----- (C) Network for Economic Education ◆◇